



山崎 和代 ◯やまさき かずよ
社会福祉法人西宮市社会福祉事業団
訪問看護課 課長
西宮市訪問看護センター 管理者
認定看護管理者

西宮市訪問看護センター(兵庫県西宮市)は3カ所のサテライト事業を展開するステーション。山崎和代さんに、管理者としての日々の思い・考えを語っていただきます。

7

ケアマネジメントに役立つ連携を!

私は現在、日本の科学ジャーナリストの第一人者であり、国際医療福祉大学大学院教授の大熊由紀子さんが主催する「前例を超える・前例を創る 医療者として、患者経験者として、ジャーナリストとして」を受講しています。講義はWeb中心で計15回の予定です。

初回は、日本の介護保険制度の成り立ちを見守ってきた大熊さんの講義でした。その中で「寝たきり老人」という言葉やその概念のある国とない国について、日本とデンマークの介護を取り巻く状況の違いが説明されました。1985年当時の日本とデンマークの高齢者の写真が映し出され、日本の写真の横には「入院中からの計画はない。オヨメさんはアマチュア。悪気はなくて『寝かせきり』」、デンマークの写真には「市町村に、現場に権限と責任。入院中から退院後のプラン。ヘルパーはプロフェッショナル。訪問ナースという司令塔。住居の改善」と書かれていました。

日本では、2000年の介護保険制度導入にあたって、デンマークの「訪問ナースという司令塔」と同じ役割を担う「ケアマネジャー」という資格が創設されました。大熊さんの講義では「さまざまな職種のケアマネジャーが生まれた。こうした背景の違いが現場に影響を及ぼしている。例えば、

ケアプランに差があることもその1つ」と指摘します。それは筆者が、訪問看護師として日々感じている葛藤や疑問の根底にあるのもの

だと腹落ちしました。

◆ケアマネジャーとの連携

どうしたら、その課題を解決できるでしょうか。それには、訪問看護師が生活と医療の視点を基に行ったアセスメントの結果をケアマネジャーに伝え、ケアプランに反映してもらうよう連携することが不可欠だと思います。医療的アセスメントによる意見は、家族とのかかわりや他のサービスとの調整などにも役立つはずですが。

私は、退院カンファレンスでケアマネジャーにアセスメントで得た情報を提供することがあります。しかし、介護保険制度開始以降に訪問看護師になった人は、職能ごとの業務分担やタスクシフトに慣れているためか、役割を超えた行動をためらう傾向があります。訪問看護の必要性を一番よく理解しているのは、訪問看護師自身です。私たちは、ケアマネジメントに役立つ連携をもっと積極的に行うべきではないでしょうか。

◆制度改定に向けて現場から声を上げる

令和3年度介護報酬改定では、病院とケアマネジャーの連携に対する評価が上がりました。しかし実際には、ケアマネジャーが病院看護師の持つ問題認識を踏まえてケアプランを作成するのは負担が大きいです。そこで、訪問看護師がケアマネジャーの相談に乗ったり、医療情報の確認を一緒に行ったりする連携体制が必要だと考えます。報酬上での評価も期待されます。次回の診療報酬・介護報酬の改定に向けて、こうした要望を現場から発信することも大切です。



illustration TOKUDOME